

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校

第2学年理科資料

こんにちは。円山動物園の「幅崎」です。宿泊学習が終わると定期テストですね。今まで学習してきた成果を発揮する本番であり、将来の受験などへ向けての練習でもあると思います。さて、今回は、「飼育員のカン」と「科学の力」についてです。



この6月からモルモットとのふれあい教室を行うことになり、一緒に組んでいる江別の野幌中学校の「山本」先生(数学)と準備を進めてきました。ところが雌のモルモットたちのおなかが、やたらとでかいのです。もしかして繁殖? 本当であればふれあいどころではありません。

早速、獣医の「伊藤」さんに診断してもらうことになりました。まずは、個体確認です。動物園の動物たちには、一頭ごとにその個体を確認するチップが埋め込まれています。写真は、それをチェックしているものですが、チップは機械で読めますが動物を見て判断できません。ここはウサモル担当の「幅崎」の出番です。最初は「マニー」、次は「モッピー」と「にわか飼育員」も「獣医」に負けていません。



プロテクターをつけて、モルちゃんをおさえているのは、もう一人の獣医「近江谷」さんです。プロテクターが邪魔で「マニー」は、いうことを聞きません。とうとう素手でおさえてしまいました。結果は写真の通りで、本人談、「私の手も写っちゃいました。」要するに不必要な被爆です。

さて、結果ですが、最近の X 線写真は、フィルムではなくデジカメで、すぐわかります。結局は、7 頭とも妊娠はしていませんでした。ほっとするやら残念やら複雑な気持ちで動物病院を出る「モルちゃんず」 with にわか飼育員「幅崎」でした。ところで、もし「ヒト」だったら、このような方法をとるのでしょうか。モル舎に戻ってチームに報告すると、ベテラン飼育員、「三原」さんも「三浦」さん、どちらも出産準備はしておくようにという指示です。小動物の胎児は写真に写らないことも多く、この4月に生まれたウサギも出産数日前に検査して、獣医判定は「妊娠していない。」という判定。ところが結果として「産まれました。」はたして今回はどうなるのでしょうか。結果が楽しみです。飼育員の観察って、意外とあたるものなのですね。つまりそれだけ見ているということです。(ゲッシ目 テンジクネズミ科)



子ども動物園情報 みんなでレポートしよう。

この週末も13:30から、ヒツジの毛刈りが行われます。刈った羊毛は、フェルトを作る材料として来園者にプレゼントの予定です。先週はあっという間になりました。天候と動物の体調を考えての作業です。変更になるかもしれませんが、運が良ければウール100%をゲットできます。

不定期の実施ですが、ガチョウ、アヒルなど水鳥の卵の観察会が行われています。朝一番で動物園に行くとフェンスと池の間に産み落とされた卵を見た人もいます。大きくて(アヒルで鶏の卵の約2倍、ガチョウだと3倍以上)おいしそうです。しかし…。

科学力も大切ですが、実際の生物を見るということがそれ以上に大切であるということを改めて考えさせられました。

また、この出来事でショッキングだったことは、「近江谷」さんが必要としない放射線を浴びたことです。もちろんごく少量で病気になるという量ではありませんが、絶対に安全ともいえません。仕事とはいえ、先の見えない放射線は、できるだけ浴びたくありませんね。